

## 人間発達学部 子ども発達学科

教授 鈴木 岩雄

教育上の能力に関する事項	年 月 日	概 要
◎教育方法の実践例	2014. 4～	「相談援助」「保育相談支援」においては、実践にすぐ使える基礎的、基本的な相談援助の知識の習得がまず必要であり、必要な事項をしっかりと理解させ、実践にすぐ活用できるよう、精選した要点を載せ、特に重要な事項は、空欄にして置き、OHCを活用して、内容を映し出し、各自に書かせるプリントを作成した。 「家庭支援論」及び「生活と福祉」においても、精選した要点を載せ、重要な事項は、空欄にしたプリントを作成し、OHCを活用して、内容を映し出し、各自に書かせるとともに、関連する新聞記事や国の発表する最新の図表を映し出し、理解を深めさせた。また、そのプリントには、事項に関連する社会的問題や事件などについて、今までの学習や体験をもとに自分の考えや思いを書かせる欄を設け、書いたものを発表させた。
◎当該教員の教育上の能力に関する大学の評価		本学の授業評価（授業アンケート）では、すべての項目に関して、ほぼ学部平均だった。

職務上の実績に関する事項	年 月 日	概 要
	2008. 4～現在	障害者総合支援法に基づく、地域における障害者の自立支援にかかる協議会（「尾張中部福祉圏域障害者支援協議会」）の会長として、周辺自治体、学校、児童相談所、職安、保健所、障害者支援団体・事業所、障害者・家族等との障害問題に関する協議や関係者や一般住民を対象とする講演、研修の機会を企画・運営してきた。（各年度）
	2012. 4～現在	愛知県社協の実施する「福祉サービス第三者評価センター」の第三者評価基準等委員会委員として、企画・運営に参画するとともに、保育所、障害者施設の調査評価者を対象とする養成研修の講師を担当してきた。（各年度） 平成28年度は研修科目「愛知県版の考え方と評価基準の構成」の講義を担当した。
	2016. 6	北名古屋市が実施主体となる「子育て支援員資格研修」の運営委託を受け、カリキュラムの策定、講師の配置・調整等の事務を担当するとともに、「子ども・子育て家庭の現状」「子ども家庭福祉」「対人援助の価値と倫理」「地域型保育の保護者への対応」等の講義を担当した。

著書，学術論文等の名称	単著， 共著の 別	発行又は発表 の年月	発行所，発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概 要
◎著書 新・保育内容総論	共	2010. 4	(株)みらい (215頁)	「第二章 保育所保育指針・幼稚園教育要領の保育内容の構造」を執筆。 平成19年3月改定の「保育所保育指針」・「幼稚園教育要領」の目的・目標、考え方などの基本的事項、及び保育内容の領域の考え方や構成、「ねらい」・「内容」などの具体的事項について解説した。(pp. 34-51)
◎学術論文等 少子化社会における保育環境のあり方に関する総合的研究（共同研究）	共	2009. 3	平成19年度～21年度 厚生労働科学研究	平成19年度、20年度は、共同研究として、保育所における最低基準（物的・人的）の増減が子どもと保育者にどのような影響を及ぼすかを、諸外国の文献、先行研究や全国の保育所を対象としたアンケート調査の結果を分析し、保育環境の在り方を考究し、保育環境のあるべき姿を厚生労働省に提言した。（共同研究 民秋言他）
少子化社会における保育環境のあり方に関する総合的研究（共同研究）	共	2010. 3	平成19年度～21年度 厚生労働科学研究	平成21年度においては、引き続き、保育環境の実態を明らかにし、そのあるべき姿を提言するため、共同研究として、全国の保育環境の実態を調査・分析し、その科学的根拠づけを考究するとともに、「児童福祉施設最低基準の制定の経緯」に関しては、鈴木が分担し、保育所に関する最低基準の制定の意図とその後の改正の背景とその経過をまとめ、3年間の研究総括を厚生労働省に提言した。（共同研究 民秋言他）
児童福祉施設最低基準の果たした役割—保育所における最低基準を中心として—	単	2010. 3	名古屋芸術大学研究紀要(2010年)	保育所を中心に「児童福祉施設最低基準」について、その制定の経緯と理念を厚生省の資料や文献からまとめ、その後の充実させてきた過程、変遷を整理し、最低基準の果たしてきた役割と意義を明らかにし、近時進められている「最低基準」の見直しが今後の保育の質の確保・向上にどのような問題をもたらすのかを考察した。
保育所保育士の受け持ち子ども数に関する調査研究	単	2011. 3	名古屋芸術大学研究紀要(2010年)	保育士が保育所保育指針に示す保育を実施するに当たり、保育士が受け持つ子ども数と保育内容の関連性を考察するため、愛知県津島市及び高浜市の保育所に対してアンケート調査を実施した。その結果、保育現場では、保育士が担当できる子ども数は、保育の臨機応変性（柔軟性と包容性）により対応されていること、子どものもつ集団の力、保育士同士のチームワーク力が関係してくることがわかった。

保育所実習指導に関する研究—実習教育のあり方の検討—	共	2014. 3	名古屋芸術大学人間発達研究所年報 (2014 H26) (25～38頁)	<p>本学の保育所実習および実習教育の質的向上を目的に、2013年度の保育所実習Ⅰを終えた2年次実習生にアンケート調査を実施し、実習に関する課題、指導のあり方等を検討した。実習生の課題として、保育者の基本的視点や意識すべき観点を捉えなおす必要性、子どもとの関わりの実践経験の積み上げの必要性等が示唆された。</p> <p>鈴木は「1 保育士養成カリキュラムと矮躯実習の意義」を担当した。(pp. 25-28)</p> <p>(共同研究：吉村美由紀、鈴木岩雄、森田裕之、渡邊美和子)</p>
----------------------------	---	---------	--	--